

第2回羽田空港機能強化に関するコミュニケーションのあり方アドバイザー会議 議事要旨

日時：平成27年5月1日（金）10:00～11:30

場所：中央合同庁舎3号館10階共用会議室

1. 第1回会議議事の確認について

- 事務局より、参考資料1「第1回羽田空港機能強化に関するコミュニケーションのあり方アドバイザー会議議事要旨」を基に説明。

2. コミュニケーションの具体的手法及びコミュニケーションのプロセスについて

- 事務局より、資料1「羽田空港機能強化に向けたコミュニケーションのあり方の基本的な考え方」、資料2「羽田空港機能強化に向けたコミュニケーションの具体的手法（案）」、資料3「羽田空港機能強化に向けたプロセス（案）」を説明。

- 各委員からの主なご意見は、以下のとおり。

（全体について）

- ・ コミュニケーションにおいては、「公平性」と「効率性」が重要。「公平性」は、双方向の対話においては特に重要であり、開催時間、参加者、主催者等が公平かどうか厳しく見られる。また、「効率性」は、議論を深めることができるか、時間を浪費しないか、という観点から考えることが必要。
- ・ 双方向の対話を行うに当たっては、責任を持った最終的な意思決定者が誰か、対話の結果がどう活かされるのかを事前に明確にしておくことが必要。
- ・ 意見を受け止め、他の人とも意見が共有されているということを伝えるためにも、意見の公表が必要。
- ・ 今回のテーマは、双方向の対話を行う法的義務はないが、国土交通省として積極的にコミュニケーションを行おうというもの。この姿勢について皆に知ってもらうことも大切。

（具体的手法について）

- ・ 積極的広報については、対象者を多様な観点からしっかり分析して、きめ細やかに手法やコンテンツを選んでいくとよい。
- ・ ソーシャルメディアについては、幅広い人と双方向のやりとりができるメリットがある一方、論点が定まらないというデメリットもある。
- ・ 資料2においては、「影響の大きい人」だけでなく、HP等を通じて、「全ての人意見が言える」ということを明示した方がよい。

- 様々な立場の人々を入れて議論する場を作ることが重要であり、相互理解や責務の共有が図られ、一緒に考えていこうという雰囲気醸成される。影響の大きい方々を対象とする場合には、ワークショップ等の互いの信頼感が醸成されるような手法を設計することが重要。

(プロセスについて)

- 今回は、対話のプロセスを2つのフェーズに分け、フェーズ①では、大枠の共有、意見や懸念の把握と整理、フェーズ②では具体の課題への対策についての議論という形になる。
- フェーズ①では、フェーズ②で混乱しないためにも、互いの認識のずれを確認し、共有することが極めて重要。特に、リスクについての認識を共有することが大切。具体的には、リスク≠危険、リスクをゼロにはできないということを説明していかないといけない。また、リスクには必ずトレードオフがあり、一つを避けると他のリスクを呼び込んでしまう、ということも共有することも重要。
- フェーズ①では、分かっていることについてはしっかりと答える、一方で、分かっていないこともあるということも伝えることが必要。対話の途中で技術的な検討も加えていくことが重要。

3. コミュニケーションにおける説明素材について

- 事務局より、資料4「羽田空港のこれから」を説明。
- 各委員からの主なご意見は、以下のとおり。
 - 数字で説明するよりも、人の言葉で説明した方が分かりやすい。今後はインタビューなどでの声を紹介する手法も活用してもいいのでは。
 - 騒音値など、感覚的に理解しにくいものについては、渋谷の街の音、公園の音など比較対象を入れてもいいのでは。

4. 今後の進め方

- 事務局より、次回会議について以下のとおり説明。
 - 次回は具体的な手法、特にオープンハウス型説明会の開催場所の考え方等について議論を行うのに加え、これまでの議論を踏まえた総括を行う予定。